

令和 7 年度

# 大阪教育大学 附属学校園

教員人事交流制度のご案内



新たなステージで

教育への情熱を

輝かせませんか？



国立大学法人

大阪教育大学

# 未来教育の創造と実践に向けて

理事・副学長(附属学校担当)  
附属学校統括機構長  
藤井 睦子



急激に変化していく時代に生きる子どもたちを育むために、主体的・対話的な深い学びをはじめとする「令和の日本型学校教育」の構築が求められています。

大阪教育大学は、教員養成フラッグシップ大学として、「令和の日本型学校教育」を担う教師の養成・育成を先導し、多様な主体とともに未来教育の創造と発信を進めています。さらに、大阪教育大学の11の附属学校園は、大学と連携しながら先進的・先導的な教育を実践・研究するとともに、教育実習等を通じて教師の養成を担っています。

各附属学校園では、探究的な学習や教科横断的な学びなど、特徴的な教育活動や教育研究が行われています。附属学校園での経験は、これまでの教育活動を振り返り、先進的な教育を実践する機会となるでしょう。また、附属学校園で得られた知見や産学とのネットワークは、先生方の今後の教育活動にも大いに生きるはずです。

チャレンジ精神と熱意をお持ちの先生方に附属学校園にお越しいただき、大阪教育大学とともに未来教育を創造し実践いただけることを心より期待しています。

## 大阪教育大学附属学校園で働いてみませんか

大阪教育大学は、大阪府及び府内市町村の教育委員会と、人事交流に関する協定を結んでいます。この協定のもと、現在11の附属学校園の教員の約6割が、人事交流制度による教員であり、教育実習指導や研究活動等の中心となって活躍しています。人事交流の手続きは次のような流れになります。

※各附属学校園において、その年度の人事交流枠がある場合に限りです。

### ▼ 人事交流の流れ (教育委員会により異なる場合があります)



## 附属学校園での「働き方改革」について

附属学校園では、教員の働き方改革に力を入れています。具体的には超過勤務時間及び時間外在校時間を減らすために各学校園で目標を定め、部活動支援員をはじめとする外部人材の活用や業務の効率化を進めています。また、附属学校園では変形労働時間制を採用しています。繁忙期に勤務日を多く設定したり、閑散期に休日を増やしたりすることで、教員の働き方の効率化を図っています。

※詳しい労働条件等は右のQRコードからご確認ください。 人事課人事係 E-mail [ninyo@bur.osaka-kyoiku.ac.jp](mailto:ninyo@bur.osaka-kyoiku.ac.jp)



# 附属学校園でできること

## 01

各附属学校園の設定課題に基づいた研究活動を通じて、教育実践の視野と力量が広がります。

先進的な教育研究を推進し、国の委託事業や教育課程特例校として様々な教育研究に取り組んでいます。自身の資質向上はもちろん、交流元に帰ってから還元できる知識・能力を得られる機会となります。

〈一例〉附属天王寺小学校(R元年度～R6年度、R7年度～再指定) 文部科学省教育課程特例校 指定  
附属平野小学校(H28年度～R元年度、R6年度～R9年度) 文部科学省研究開発学校 指定  
附属高等学校平野校舎(R2年度～R5年度) WWL(ワールド・ワイド・ラーニング) コンソーシアム構築支援事業拠点校 採択



## 02

自分の設定したテーマで科研費やその他助成金に応募したり、企業・団体との共同研究に挑戦できます。

科学研究費助成事業(科研費)の一つである「奨励研究」へ応募する附属学校園の教員は、申請に際して大学からのサポートを受けることができます。希望者には応募書類の添削サポートや大学教員からアドバイスを受ける機会を設けています。また、附属学校園では様々な助成金や共同研究にも取り組んでいます。

〈R7年度奨励研究獲得実績〉  
採択数:附属学校園全体 5名

〈R6年度その他助成金実績一例〉  
附属池田中学校  
『2024年度ソニー教育助成 未来へつなぐ教育計画』(ソニー教育財団)  
助成額:10万円  
附属高等学校天王寺校舎  
『2024年度武田科学振興財団高等学校理科教育振興助成』(武田科学振興財団)  
助成額:30万円

## 03

連合教職大学院への「内地研修制度」を利用できます。

現職研修の一環として、所属校園長の推薦を受けて、教職大学院で実践的な学びを行います。内地研修員になれば、教職大学院の授業料が全額免除されます。(年度ごとに推薦枠に限りがあります。検定料及び入学料は自己負担となります。)

〈R5年度～R7年度実績〉  
内地研修員 計11名  
(スクーラーリーダーシップコース6名、援助ニーズ教育実践コース2名、教育実践力コース2名、特別支援教育コース1名)

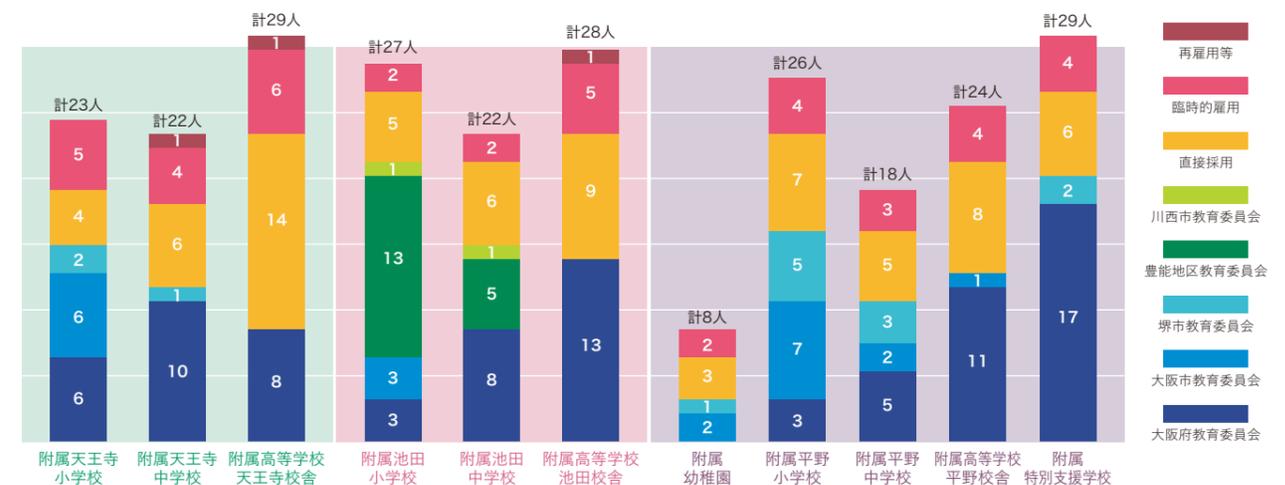
## 04

大学や異なる校種の教員と協働して教育研究活動を行えます。

〈一例〉附属学校園教員と大学教員との研究交流会、地区間合同研究発表会 等

## 附属学校園人事交流状況

令和7年5月1日現在 ※病気休暇取得者・産前産後休暇取得者・育児休業者を含む(臨時的雇用は、病気休暇取得者・産前産後休暇取得者・育児休業者の代替者を含む)



麓 健志郎 さん

派遣元府市町村：大阪市  
現在の所属校：附属天王寺小学校  
担当学年：1年生



教職大学院での学びを  
学校現場に還元し、  
教育の可能性を広げたい。

内山 美和 さん

派遣元府市町村：大阪府  
現在の所属校：附属高等学校平野校舎  
担当教科：英語



附属学校での経験が、  
私の教育観を  
豊かにしてくれました。



## Interview

### Q1 / 人事交流に応募したきっかけは何ですか？

大阪市の公立小学校で勤務していた時に所属校を通じて、附属学校への人事交流制度を知りました。当時大阪府で体育の授業研究をする体育部に所属し、大阪市全体への公開授業も行っていました。

ほぼ同じ時期に、人事交流でも体育卒の募集があったため、附属学校で体育の研究をもっと深められたらと思い、応募に至りました。

### Q2 / 附属学校で新たに挑戦されたことはありますか？

内地研修員として教職大学院\*に通っていることです。附属学校赴任前に説明会などで内地研修制度\*の説明があったので、いつかチャレンジしたいと思っていました。

現在は教職大学院のスクールリーダーシップコースで、体育授業を中心としたカリキュラムマネジメントについて学んでいます。仕事と大学院の両立は大変な面もありますが、大阪府や大阪市の現職の先生方と出会えて、未来の教育について話し合えることが面白いですね。

### Q3 / 附属学校の強みは何だと思いますか？

附属学校の強みは、大学教員との距離が近いこと、企業など外部との共同研究ができる点です。大学で体育とICT活用について研究している先生からお声がけいただき、私の担当する授業で、実際に子ども達にウェアラブルデバイスを身に付けて運動を行う実践研究を行いました。他にも企業と共同研究を行い、セミナーや学会で発表も行いました。学会発表では、イギリスのマンチェスターまで行く機会があり、とても貴重な経験になりました。

### Q4 / 附属での経験を今後のキャリアにどう活かして行きたいですか？

ここで学んだことを活かして、人事交流元に戻った時には地域の教育課題に取り組み、学校はもとより、地域に貢献できる教員になりたいと思います。

これからも大学や様々な立場の方と関わりながら経験を積み重ね、何れは教育委員会など地域全体に関わって活躍できるような存在になれたらと思います。



## Interview

### Q1 / 附属学校のどこに魅力を感じましたか？

研修機会が豊富にある点です。これまで公立高校で諸先輩方に指導を受けて、自分なりの授業を作り上げてきましたが「このスタイルで果たして良いのか？」という不安もあり、改めて教授方法を学び直したいという思いがありました。附属学校では、例えば「概念型授業」についての講義を受ける機会や幼・小・中・特別支援学校と校種を越えて研究発表を共にする機会に恵まれました。また、授業研究では、大学で英語科教育を専門とする教授からアドバイスをもらい、新しい視点をもって授業づくりが出来るようになりました。

### Q2 / 附属学校での経験を通じて、ご自身にどのような変化や成長がありましたか？

附属学校に来て生徒の自主性と主体性の高さに驚きました。文化祭・体育祭などの行事をはじめ、総合学習でも班編成や何をどのようにするか自分たちで決める姿は印象的です。生徒たちは積極的に外部とも連携を図り、多くの経験を通じて成長しています。このような環境を受けて、私自身の教授法にも変化がありました。授業も生徒が主体的に考えるための工夫をするようになり、生徒同士のディスカッションや答えのない問いかけを通じて、生徒に英語を学ぶ意味を考えさせることができるようになりました。

### Q3 / 附属学校ではどのような働き方ですか？

本校では変形労働時間制を導入しています。月に2回ほど土曜日の出勤がありますが、その分、夏休み期間にまとまった休暇を取れるため、研究活動や自己研鑽に専念することが可能です。

また、本校ではクラブ活動はクラブごとではなく、曜日ごとの担当者が出勤時間を1時間ずらすことで、放課後の付き添いをします。休日の遠征には、部活動指導員を活用して教員の負担軽減を図っています。

### Q4 / 人事交流を検討している先生方へ、特に伝えたいことは何ですか？

本校では国際交流行事が盛んです。私自身、2年生全員参加のベトナム研修や語学研修の引率をはじめ、本学留学生と生徒が交流する活動をサポートしたり、今年は大阪・関西万博やJICA関西訪問などの活動にも携わっています。本校は1学年3クラスと小規模なため、一教員が様々な業務を担当しますが、その分たくさん経験を積むことができ、世界が広がりますので、ぜひチャレンジしてみたいと思います。

\* 教職大学院 ……大阪教育大学連合教職実践研究科  
\* 内地研修制度 ……現職教員が所属長の推薦を受けて教職大学院で研修する制度。  
入学選考があり、検定料、入学科は個人負担で、授業料は全額免除される(ただし推薦枠は年度ごとに限りがある)。

# 附属学校園一覧

各校園の詳細は  
こちら▶▶▶



TENNOJI District

## 天王寺地区

**研究テーマ**  
(平成22年度～)

### 人間と科学の調和を拓く リテラシー教育

物事に対する知的好奇心を基礎に、科学的・論理的な知識や技能を活用し、課題の発見や解決への道を体験的な学びを通して開拓していくリテラシーの育成をめざしています。

## 附属天王寺小学校



本校は、長年にわたり教科研究を深化させるため、校内研修・校内研究を推進し、その成果を毎年授業研究会で全国の先生方や教員をめざす学生に広く公開しています。また、平成30年度には文部科学省の事業委託を受け、働きやすい環境づくりを目指した業務改善を進めました。さらに、令和2年度及び3年度には国立教育政策研究所の教育課程研究指定校として、また令和7年度より教育課程特例校として「教科横断的な学習としてのSTEAM教育」を推進し、ぼうさい教育とも関連させて、汎用性の高いカリキュラムの開発に注力しています。

収容定員 …… 630  
学級数 …… 18  
現員 …… 626

HIRANO District

## 平野地区

**研究テーマ**  
(令和7年度～)

### 新しい社会を創造する子ども一人ひとりの 育成を目指した教育課程の実施と教育評価

～主体性が働く課題設定能力の育成と  
学習評価のモデル開発をめざして～

すべての校種が近接する地区の特色を生かし、五校園が日常的に連携して子どもたちの交流・共同学習や教員の協働と研究を進めています。なかでも、幼稚園から高校まで学び続ける環境と特別な支援を得ながら育つ環境に基づく、全国的にも珍しい「五校園共同研究」に取り組み、長期的な子どもの成長の視点にたった主体性の育成や探究的な学びの指導など、今日的な教育課題に焦点をあてた研究に邁進しています。

## 附属幼稚園



「すこやかに、あたたかく、遊びに生きたる子ども」という教育目標のもと、主体的に生活する子どもの育成をめざしています。園内の豊かな自然環境(実のなる木、様々な動物等)、ものや身近な人々との関わりを通して学びが深まるよう取り組んでいます。また、保護者による「手づくり給食」を実施し、保育内容にも食の関心に繋がる内容を取り入れながら食育を推進しています。

収容定員 …… 150  
学級数 …… 6  
現員 …… 139

## 附属天王寺中学校



「質実剛健」の校風を持ち、歴史と伝統を誇る「天王寺学びのもり」から多くの有為な人材を輩出してきました。本物体験とコミュニケーション能力を高める場が数多くプログラムされています。さらに、新しい文化や情報の発信を行い、教員・生徒をはじめ保護者やステークホルダーすべての人々の力を結集して、「学びたい学校、学んでよかった学校、学ばせたい学校」をめざしています。

収容定員 …… 432  
学級数 …… 12  
現員 …… 430

## 附属高等学校天王寺校舎



「わくわく」をキーワードに、生徒の自主的な創意工夫を尊重した、協働的な学習・教育環境を作っています。本物・実物の体験を重視し、生徒の自治会活動なども含め、多様な知的好奇心に応える活動の場を提供しています。スーパーサイエンスハイスクール(SSH)第3期がはじまり、国際的に協働する文理融合型学習者の育成を目指し、姉妹校である米国、タイの理数科高校との交流も積極的に進めています。

収容定員 …… 480  
学級数 …… 12  
現員 …… 475

## 附属平野小学校



教育目標「ひとりて考え ひとと考え 最後までやりぬく子」を基盤とし、令和6年度より、文部科学省研究開発学校に再度指定されたことを受けて、新教科「未来探究科」を新設し、「未来の社会を創り出す子ども」の育成を目指して研究を進めています。教職員・保護者・卒業生・地域が一体となって、子どもたちの健やかなる成長に向けて、特色ある学校づくりに取り組んでいます。

収容定員 …… 630  
学級数 …… 18  
現員 …… 620

## 附属平野中学校



本校では、「真剣を究める。」をスローガンに、授業や学校行事の中で主体性と協働への意欲を高め、生徒一人ひとりが最大限の力を発揮できる学校を目指しています。また、総合的な学習の時間(JOIN)では、日常生活や社会の課題に向き合い、課題解決のための提案を行います。平野五校園と家庭、地域が一体となり、教育実践を重ねています。

収容定員 …… 324  
学級数 …… 9  
現員 …… 321

IKEDA District

## 池田地区

**研究テーマ**  
(令和5年度～)

### グローバル社会を協働的に 創造する資質・能力の育成

持続可能な社会の実現に向けて、「安全」等の様々な課題を自分のこととして捉えられるよう、そして、多面的な視点で論理的・批判的に考え、主体的に学び続けることで、VUCAの未来を自主・自律の精神をもって生きてゆくことができる資質・能力の育成をめざしています。

## 附属池田小学校



学校安全の取組が認められ、平成27年3月に日本で最初のセーフティプロモーションスクールに認証され、現在はアドバンスドセーフティプロモーションスクール認証校となっています。「安全教育」「道徳教育」「協働活動」を通じて、自他の命や考えを大切に、共によりよい社会を築こうとする資質を養う教育を行っています。また、教育研修会を開催し全国の教員の方々と交流して、よりよい授業づくりの研究を推進しています。

収容定員 …… 630  
学級数 …… 18  
現員 …… 606

## 附属高等学校平野校舎



1学年120名という学校規模と令和2年度より指定を受けたワールド・ワイド・ラーニング(WWL) コンソーシアム構築支援事業拠点校としての強みを生かした教育活動を展開しています。少数精鋭・創造探究・自主自立の教育方針のもと、国内・海外の大学・高校・協働機関・平野五校園等と連携し、ホンモノとの出会いと深い学びから何事にも應ずることのない探究心を育み、多文化・多様性を理解し世界で活躍するグローバルリーダーの育成に取り組んでいます。

収容定員 …… 360  
学級数 …… 9  
現員 …… 346

## 附属特別支援学校



本校は、知的発達障害のある児童生徒が学んでいる学校です。一人ひとりの存在と個性を尊重した教育支援を日々実践しています。小学部から中学部、そして高等部まで一貫したキャリア教育の視点を取り入れ、自ら考え行動できること(自立)、仲間と支え合い共に活動できること(相互依存)、主体的に社会に関われること(社会参加)を目標として、子ども・保護者・地域にとって魅力ある学校づくりに取り組んでいます。

収容定員 …… 60  
学級数 …… 9  
現員 …… 59

## 附属池田中学校



自主・自律の精神のもと、コミュニケーション力、探究力を重視し、「安全教育」「道徳教育」「地域活動」を通じて、世界や社会の課題に向き合い、多様な人々と共に生きる豊かな心を育む教育を行っています。また、平成27年3月にセーフティプロモーションスクールに認証され、令和6年3月には継続的に安全に取り組む学校として、アドバンスドセーフティプロモーションスクールに認証されました。

収容定員 …… 432  
学級数 …… 12  
現員 …… 434

## 附属高等学校池田校舎



自由・自主・自律の校風のもと、生徒一人ひとりの個性を大切にしながら、「安全教育」「国際教育」「創造活動」を通じて、持続可能な社会の実現に向けた課題を世界の人々と協働して創造的に解決する力を養う教育を行っています。令和2年度からWWLコンソーシアム構築支援事業の共同実施校となり、令和4年3月にはセーフティプロモーションスクール認証校となりました。

収容定員 …… 480  
学級数 …… 12  
現員 …… 470

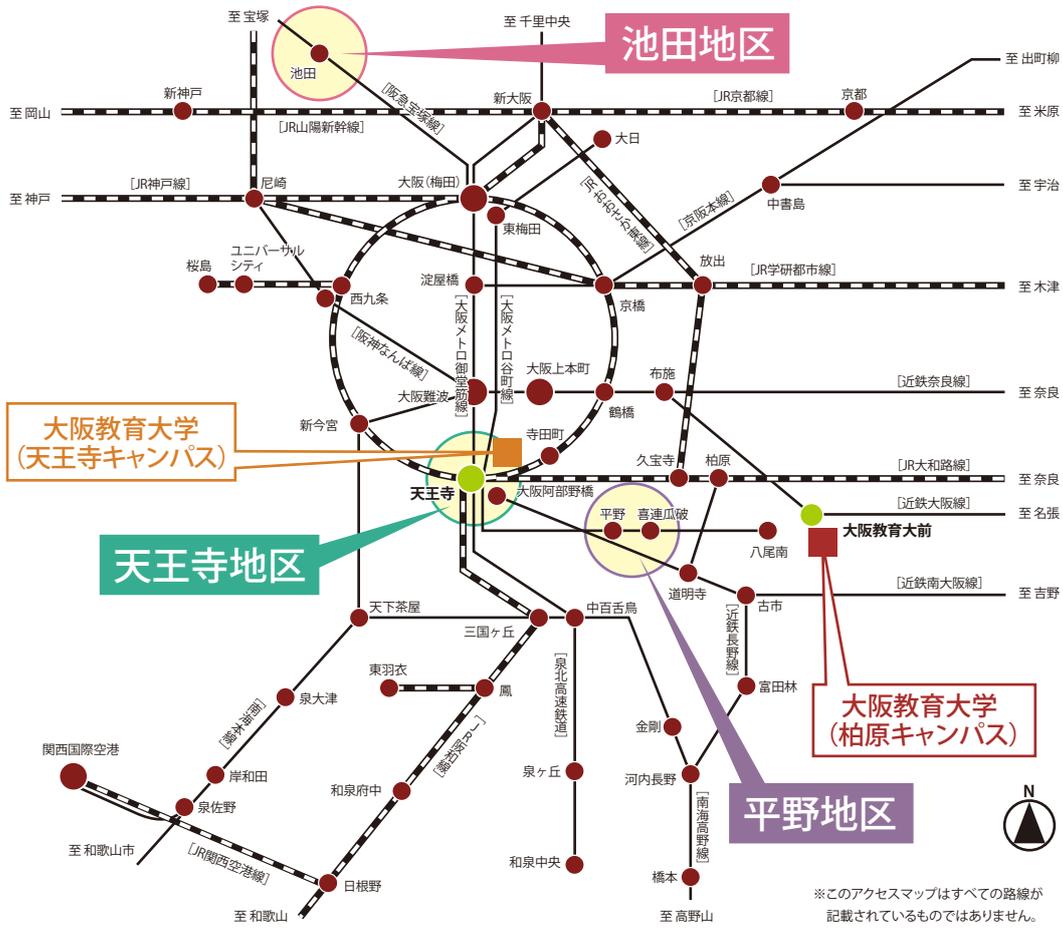
### 附属学校統括機構

天王寺地区	附属天王寺小学校	池田地区	附属池田小学校	平野地区	附属幼稚園	附属高等学校平野校舎
	附属天王寺中学校		附属池田中学校		附属平野小学校	附属特別支援学校
	附属高等学校天王寺校舎		附属高等学校池田校舎		附属平野中学校	

本学では、大学と附属学校園を結ぶ「附属学校統括機構」を設け、次世代の教育を推進しています。この機構は、11の附属学校園(小学校:3校、中学校:3校、高等学校:1校3校舎、特別支援学校:1校、幼稚園:1園)を統括し、学校運営の効率化、先進的な指導法や教育研究の深化、さらには学校安全教育の充実を図るとともに、大学部局との連携を進めています。また、附属学校園は、教育研究・教育実習の重要な拠点としての役割を果たし、それぞれ地域の特色に基づいた教育テーマに取り組むとともに、連絡進学をはじめとする相互連携を図っています。

※数字は令和7年5月1日現在

# ACCESS MAP



## 附属学校園の研究発表会等予定

附属学校園では下記の日程で研究発表会等を予定しております。詳細及び参加申込につきましては、各学校園のHPをご覧ください。

- |               |               |         |              |            |         |
|---------------|---------------|---------|--------------|------------|---------|
| ● 附属天王寺小学校    | 令和8年2月6日・7日   | 授業づくりの会 | ● 附属池田中学校    | 令和7年11月15日 | 研究発表会   |
| ● 附属天王寺中・高等学校 | 令和7年11月8日     | 教育研究会   | ● 附属高等学校池田校舎 | 令和7年11月15日 | 公開授業研究会 |
| ● 附属池田小学校     | 令和8年2月21日     | 教育研修会   | ● 池田地区       | 令和7年11月15日 | 研究発表会   |
| ● 附属平野小学校     | 令和8年2月13日・14日 | 研究発表会   | ● 附属特別支援学校   | 令和8年2月7日   | 研究発表会   |
| ● 附属平野中学校     | 令和7年11月1日     | 研究発表会   | ● 附属幼稚園      | 令和8年1月24日  | 保育研究会   |
| ● 附属高等学校平野校舎  | 令和7年11月1日     | 教育研究発表会 | ● 平野五校園      | 令和7年11月1日  | 共同研究発表会 |

編集発行

大阪教育大学附属学校統括機構

〒582-8582 大阪府柏原市旭ヶ丘4-698-1

E-mail fuzoku@cc.osaka-kyoiku.ac.jp

Tel.072-978-4017 Fax.072-978-3262

大阪教育大学Webページ

<https://osaka-kyoiku.ac.jp/>

